

第1章 YOKE 日本語教室の紹介

1 YOKE 日本語教室の概要

YOKE 日本語教室は、横浜で暮らす人の生活が豊かになるように、生活に役立つ日本語を学習する教室です。また、参加者が知り合うことを大切にしています。

- 教室名 : YOKE 日本語教室～伝え合おう！ 私のこと 横浜のこと～
- 開講日 : 月曜日・水曜日 10:30-12:00 (週2回・90分)
- 学習期間 : 1期全20回(年3回開講) 4～7月／9～12月／1～3月
- 対象 : 日本語初級者／日常生活で日本語が必要な人／日本に3年以上住む予定の人
- 定員 : 30人
- 参加費 : 10,000円(全20回)
- 学習形態 : 小グループレッスン
- 学習内容 : 生活に役立つ日本語を学ぶ
- 主催 : 公益財団法人横浜市国際交流協会

----- 教室が大切にしていること -----

人間関係
(コミュニケーション)

定住者ネットワーク
(社会参加)

地域につなぐ
(多文化共生)

2 YOKE 日本語教室の目標と主な特徴

(1) 教室の目標

YOKE 日本語教室では、学習者にとっての教室の目標を、次のとおり設定しています。

【YOKE日本語教室の目標】

生活に必要な日本語を学び、自分のちからを生きながら、
横浜でより豊かな生活が送れること

- 1 生活に必要なことばや情報を学びます。
- 2 日本語で表現できることを増やします。
- 3 自分のことを語り、お互いを知ることを大切にします。

(2) 教室の主な特徴

自己表現ができる環境を目指す教室には、運営上の様々な工夫があります。
主な特徴は次の3点です。

小グループでの活動を基本とし、

- ① トピックベースでの学習
- ② 日本語をたくさん使う場作り
- ③ レベルにこだわらないグループ編成

での教室活動を行います。

① トピックベースでの学習

- YOKE日本語教室の学習では、文法積み上げを優先させるのではなく、**テーマ・トピックに基づく教室活動を通じて学習を進めます。**固定のテキストはありません。
- トピックは、学習者と日本語サポーターが相談しながら決めていきます。学習者の「**自分が表現したいこと**」を中心としたトピックを扱います。日常の生活場面や生活情報、意見が交換できる話題、文化に関してなど様々です。
- トピックで学ぶことは、興味のある話題ゆえに、**学習者の「自ら学ぼうとする力」が発揮されることも多い**です。また、学習者同士の会話の中から、想定していなかった話題の広がりができ、**新たな学習ニーズが発見**できます。

② 日本語をたくさん使う場づくり～「正しく話す」よりも「伝わる」ことを大切に～

- YOKE日本語教室では、日本語を初めて学ぶときからでも、**自分のことを話す活動**をします。身振り手振りや絵、スマホなども活用した、リアルなコミュニケーションの場です。「正しく話す」ことよりも、**自分の表現したいことが「伝わる」ことを大事**にしています。
- 学習者が自分を表現し、人と交流できる場となるための環境づくりに努めています。**間違った表現をしても大丈夫であるというように、安心な場を保証**します。「話したい」「伝えたい」という気持ちを第一に考え、学習者の表現したいことを引き出します。

③ レベルにこだわらないグループ編成

- 日本語習得レベルにこだわらず、学習者の違いを生かし合えるよう、グループ編成に配慮をしています。目指すのは「**居心地の良いグループづくり**」です（P6参照）。**自分自身のことを無理のない範囲で伝え合うこと**で、学習者同士が居心地の良さを感じ、安心して学べる環境になると考えています。
- 「トピックで話す学び」では、**日本語習得レベルの差があるからこそ生まれるコミュニケーションもあり**、グループ内の学び合いが起きやすいです。日本語の理解の進んでいる人が仲間を助けたり、逆に、日本語力は足りなくても得意分野で力を発揮する人がいたり、対等で、かつ、助け合う姿が自然とみられます。

*コラム1 どうしてこのような教室になったの？

YOKE 日本語教室は 2005 年に始まりました。長い間、いわゆる日本語レベル別グループ編成・テキストの積み上げ式中心での学習を進めてきました。そのなかで、次のような状況がみられました。

- **ニーズの多様さ**

生活者としての外国人の生活環境、生活上の日本語の必要性や学習ニーズは、実にさまざまです。「仕事をしたい」「ママ友と話をしたい」「日本の生活環境、文化を知りたい」「知り合いを作りたい」など、多様な人が集まります。その多様さを生かしたいと思いました。

- **生活者として**

日本で暮らす学習者は、日常生活の中でさまざまな日本語に接します。テキストの順にことばを習得するわけではありませんし、生活で必要とする言葉や表現は、人によって実に異なります。また、生活のなかで日本語を覚える人たちが共に学ぶとき、常にレベル差がつきまといます。「レベル別」にこだわらない方法を考えたいと思いました。

- **日本語ができるとは？**

テキスト学習が進んで文法は理解できているのに「話せるようにならない」「コミュニケーションがとれない」という人が散見されました。また、「まだ日本語が話せないから」と学習を続けるばかりで、地域に出ていきたくても足踏みしている様子の方もいました。

そこで、2015 年度のリニューアルを機に、生活上のコミュニケーションを重視し、日本語をたくさん使えるような日本語教室を目指すこととしたのです。

